

寺報

平成三十年三月
第七十九号

正念寺護持会発行

常陸太田市久米町二十一

電話 〇二九四一七六一二〇五八

FAX 〇二九四一七六一〇一六九

報恩講スタンプラリー結果報告

昨年の報恩講の折りに、他のお寺の法話も聞いて欲しいという願
いから、四ヶ寺を回る「報恩講スタンプラリー」を開催しました。初
めての試みであるばかりか、発案から実施まで時間も余りなかつた
ので、参加者がいるだろうか？と言う不安もあったのですが、やっ
てみたいことにはわからない、と言うことで急遽実施することとな
りました。

法要直前の聞法
会や寺にお見えに
なった方などに声
をかけ、茨城東組
内の門徒推進員の
方にまでお声がけ
をして、やっと十
名ほどが集まりま
した。

皆さん、それぞ
れ自分の檀那寺で
は法要の度にお話
を聞く機会があつ
ても、よその寺に



正念寺門徒
橋本 貢様



正念寺門徒
井坂ヨシエ様 井坂哲也様

行くことはほとんど無かつただろうと思います。と言うより、よそ
の寺に行つてはいけないという風に考えていた方もいるかも知れま
せん。
今回のスタンプラリーをきっかけに、是非色々なお話を聞いてい
ただければと思います。

今年の報恩講でも、是非このスタンプラリーを行いたいと考えて



正念寺門徒
坪井 幸夫様



安楽寺門徒
清水 久様



小澤 光明様

準備期間も持てる
ように早めに取り
かかり、多くの方
に参加していただ
けるようなスタン
プラリーにしてい
きたいと思えます。
写真は、今回の
スタンプラリーに
参加して、三ヶ寺
以上回られた方々
六名です。



しんらんさま

(第七回)

息子「善鸞」の義絶という悲しい出来事の後も親鸞聖人は執筆活動を続けられました。「善鸞義絶」に關しても諸説ありますが、ここでは略しておきます。善鸞義絶後に書かれたものであろうと推定されるものはいくつかありますが、「正像末和讃」はその一つになります。この「正像末和讃」は、「浄土和讃」「高僧和讃」と併せて『三帖和讃』と呼ばれております。この他にもいくつか書き上げており、八十歳後半にしてこの旺盛な著作は、親鸞聖人が如何に「法然聖人」から伝えられたお法を私たちに伝えようとしたかとの証左でもありません。

しかし親鸞聖人にもやがて死の瞬間は訪れます。弘長二年十一月二十八日(西暦換算・一二六三年一月十六日)、行年九十才(満八十九才)にて、聖人の弟(尋有)が住職をしていた善法坊(院)において往生されました。その場所ですが、実は三説ほどあり、当本願寺派では西の万里小路として、そこに善法院を再興(現角坊別院)してあります。大谷派では、「親鸞ヶ原」と呼ばれるようになった地に建立された「法泉寺」の跡地(現京都御池中学校)付近としてい

ます。また、西洞院松原にある光円寺(大谷派寺院)で亡くなり、その後何

らかの理由で「善法院」に遺体を移されたとする説もあります。このようにいくつかの説がありますが、九十年に及ぶ生涯を京都の地で終え



法泉寺跡地

られたことは間違いの無いことで、そのご遺体を鳥辺野の地で茶毘に付されるのですが、これも場所が二箇所あり、本願寺派では鳥辺山南辺(現大谷本廟北側)と言い、大谷派では延仁寺(現今熊野)北側と言っております。雰囲気としては大谷派の言う場所の方があるのですが、七



光円寺

百五十年以上前のことでもありますので、正直なところは判らないと言ったところでしょう。この茶毘に付した後、ご遺体は「大谷」と呼ばれる場所に納められました。ところで聖人は、ご自身の死後「遺体は川に捨て魚の餌にせよ」という事を言い残しておりました。遺骨に執着するなよという事だったのでしょか？しかし、聖人の死後私たちはその「遺骨」を守り、その血筋を現在に至るまで大事にしております。それが本願寺の法灯であり、ご門主の血統なのでしようが、ご門主は常に親鸞聖人を意識し、自らを律していかなければならない立場であり、法の継承者としても道を逸れることの出来ない立場であり続けることは、大変にストレスのたまることでもあろうかと思えます。親鸞聖人の生涯を七回にわたって追いかけてみました。親鸞聖人について、沢山の方が様々な角度から書かれております。興味を持たれた方は、そのような本を読まれると面白いかと存じます。

参考文献

- | | | |
|---------|---------|------|
| 知られざる親鸞 | 平凡社新書 | 松尾剛次 |
| 親鸞再考 | NHKブックス | 松尾剛次 |
| 親鸞 | 河出書房新社 | |
| 親鸞と恵信尼 | 自照社出版 | 今井雅晴 |

終

初参り

9月16日にお参り



植田 豊晴君
植田 伶旺君

11月12日にお参り



磯崎 紡久
小林 南々子
倉持 咲那
小林 快成
倉持 芙優



仏具お磨きの様子

春の永代経・夏の歓喜会・秋の報恩講と各法要前には、本堂の仏具を磨いてキレイにしております。その折りに、毎回ご門徒の皆さまの中から十名程度ご協力いただいております。写真は、昨年秋の報恩講前のお磨きの時の光景です。



力を入れて磨いていただいております。そのお陰で、仏具もピカピカと輝いております。皆さまも一緒に磨きませんか？

次回予定

八月二日
十一月十二日

寺院巡り旅行のお知らせ

- 一、 参拝寺院 築地本願寺等
- 一、 観光 千葉・勝浦近郊
- 一、 日程 五月三十日～三十一日
- 一、 参加費 二万九千円

どうぞよろしくお願いいたします。



感謝録

ご寄付を戴きました事に感謝を込めてご報告させていただきます。

一、仏具代として

金 壹拾万円

根本 寛治様

一、父の永代経として

金 貳拾万円

園部 君子様

一、駐車場整備代

住 職

お寺でライブ？

七夕の夕べ コンサート

正念寺のご門徒に、オペラ歌手の「天下井朱海」様がいらつしやいます。今回、お願いして本堂でコンサートを開いて戴く事となりました。左記の通り行いますので、是非沢山の方に、出来ればお子さん連れでも足を運んでいただければと存じます。

日 時 七月七日 午後六時半開場
午後七時開演
場 所 正念寺本堂

お仏供米奉納

七十八号発行後に御仏供米をご奉納戴きました。

常陸太田市

勝山 芳和 様

ご奉納戴きました御仏供米は大切に使用させていただきます。



グランドゴルフ正念寺杯参加者募集

二月に行う予定だった第一回は、コースが雪で凍ってしまったっており、中止せざるを得ませんでした。初っぱなから出鼻を挫かれた感はありませんが、懲りずに延期をして再スタートを切りたいと思います。

場所は、正念寺近くのコースを考えておりますが、まだ決定ではありません。日時等は、左記の通りです。

日 程 平成三十年四月十日（火）
集合場所 正念寺（午前九時集合）
会場 現在未定
参加費 未定（数百円を予定）
募集定員 四十名
連絡先 正念寺まで

住職雑感

昨年永代経法要で、「一龍齋春水」さんに十年に渡つての口演「中村久子伝」が完結しました。そして今年は、金子みずぶさんの話をしていただきました。

この金子みずぶさんは、浄土真宗の教えが染み込んだ、山口県長門市仙崎で生まれました。沢山の詩の中にもその事が息づいていますが、その中に「報恩講」という詩があります。その詩の中に、

「とても大きな蠟燭と、とても大きなお火鉢で、明るい、明るい、暖かい。大人はしつとりお話で、子供は騒いじや叱られる。だけど明るく賑やかで、友だちやみんな寄つていて、何かしないじやいられない。」

こんな部分があり、大人から子供までみんな一緒にお寺に参り、子供はお話は解らなくても一緒にいて、普段と違う大きな蠟燭の明かりが、堂内を照らしている。そんな普段と違うことにワクワクしている子供の気持ち（みずぶさんの実体験でしょう）が良く表れていると思います。

浄土真宗の教えが染み込んでいる土地柄を「土徳」とい呼び方をします。このみずぶさんの生まれた仙崎もそんな土地柄だったのでしようね。